科学基礎論学会における 欧文誌刊行の現状と問題点

平成24年7月25日

平成24年度第3回 SPARC Japan セミナー
「平成25年度 科学研究費補助金（研究成果公開促進費）改革」

科学基礎論学会
神戸大学大学院システム情報学研究科
菊池 誠

科学基礎論学会とは？

- **英語名称**

- Japan Association for Philosophy of Science

- **概要**

- 科学の基礎および哲学に関する学会.

- <http://phsc.jp>

- 1954年（昭和29年）に湯川秀樹（物理学）、末綱愨一（数学）、高木貞二（心理学）、下村寅太郎（哲学）らによって創立.

- 哲学、物理学、生物学、数学、心理学、社会科学、工学などの専門家が参加。会員数は約500名.

- **主な活動**

- 総会と講演会（6月）、秋の研究例会（11月）の開催.

- 学会誌（和文誌：年2冊、欧文誌：年1冊）の刊行.

科学基礎論学会とは？

- 関連する学会

- 国際科学者会議（ICSU）, the International Union of History and Philosophy of Science, the Division of Logic, Methodology and Philosophy of Science
- 日本哲学会, 日本物理学会, 日本数学会など.
- 科学哲学会, 応用哲学会

- 学会誌

- 科学基礎論研究 : 1954年より刊行. J-STAGE で公開. 年2冊.
- Annals of the Japan Association for Philosophy of Science : 1956年より刊行. CiNiiで公開. 年1冊.

科学基礎論学会とは？

科学基礎論研究

Journal of the Japan Association for
PHILOSOPHY OF SCIENCE

2012年
第39巻 第2号

論文

- 矛盾許容型論理 PCL1 の拡張について 大森 仁・葉谷敬晴 (1)

特集：あたらしい数理論理学の探検：
証明論的な順序数と集合論的な順序数

- 特集への序文 藤田博司 (19)
- 〈数学の哲学〉における多元的視点 中山康雄 (21)
- 現代集合論における巨大基数 薄葉季路・藤田博司 (33)
- 非可述性の分析としての証明論 秋吉亮太 (43)

書評

- 因果と実在 Judea Pearl, *Causality*, 2nd ed. 書評 大塚 淳 (59)

学会活動報告

- 2010年度奨励賞選考結果 (67)
- 2011年度研究例会プログラム (69)

科学基礎論学会

Vol.20
MARCH 2012

Annals of the Japan Association for Philosophy of Science

CONTENTS

Special Section: Infinity in Philosophy and Mathematic

Sakaé FUCHINO	Preface to the special section	1
Akihiro KANAMORI	The Mathematical Infinite as a Matter of Method	3
John P. BURGESS	Axioms of Infinity as the Starting Point for Rigorous Mathematics	17
Toshiyasu ARAI	A Sneak Preview of Proof Theory of Ordinals	37
Sakaé FUCHINO	The Set-theoretic Multiverse as a Mathematical Plenitudinous Platonism Viewpoint	57

PUBLISHED BY THE
JAPAN ASSOCIATION FOR PHILOSOPHY OF SCIENCE
TOKYO

欧文誌刊行の問題点

- 投稿が少ない

- 日本人は英語で哲学の論文を書かない。
- 欧米人は日本の雑誌に論文を投稿しない。
- 科学者や数学者は哲学的な議論を嫌う。

- 読者が少ない

- 主要な論文は欧米の有名な雑誌に掲載されている。
- 日本人には英語より日本語の論文の方が読みやすい。
英語の論文は日本人には読んでもらえない。

- お金がかかる

欧文誌刊行の意義

- 言葉の壁を破る

- 哲学の論文には高い語学力が要求される.
- 非欧米圏の研究者が、研究内容を英語で公表できる場が必要.

- 対話の促進

- 日本語で論文を書く限り、対話は不成立.
- 対話が成立することで、研究そのものが変化.
- 科学者と哲学者の対話が必要.

- 主体的な主題の設定

- 国や地域によって問題は異なる.
- 我が国に固有の問題や価値観のもとで主題を設定する国際的な雑誌が必要.

改善策

- 「特集」の充実

- 海外の研究者を招聘してシンポジウムを開催.
- シンポジウムを中心に特集を企画.

例 : Annals of the ... Vol.20 (2012)

特集「Infinity in Philosophy and Mathematics」

- 2010年に開催した同名のシンポジウムが基礎
- 海外研究者から2本, 国内研究者から2本

- 日本における研究の紹介

- 日本における研究活動, 日本語の出版物の紹介.
- 日本語で書かれた重要な文献の英訳の掲載. 翻訳が著者と訳者の対話を促すことも期待.

改善策

- 関連する学会との連携

- 日本科学哲学会，応用哲学会との連携（シンポジウムの企画運営，翻訳論文および翻訳者の選定など）
- 関連する科学・数学・心理学・社会科学などの学会との連携（シンポジウムの共催等による科学者と哲学者の対話の促進）
- 韓国，中国や欧米の学会との連携

- 財政的裏付けの確立

- シンポジウム開催の経費（旅費，滞在費）
- 翻訳料，原稿執筆料

まとめ

- **哲学系の欧文誌を発刊することの意義**
 - 言葉の壁を破る
 - 対話の促進
 - 主体的な主題の設定
- **意義を実現するための改善策**
 - シンポジウム開催などに基づく「特集」の充実
 - 日本における研究活動の紹介
- **実現方法**
 - 関連する学会との連携
 - 財政的裏付けの確立